

外国語を学ぶ前に必要なこと(ことばを覚えるしくみから)

「小さなうちに母語以外の言語にも触れさせておけば、子どもは“母語と同じように”その言語もラクに素早くネイティブ並みのレベルで身につけられるのではないかしら」よく聞くそのような考えは、どうやら大人の都合よすぎる期待のようです。結論として、子どもは母語であろうとラクして学んでいるわけではありません。時間はかかっていますし、相当な努力もしています。そして、子どもにそのような努力ができるのは、それがわかるようになることがぜひとも必要だと実感させる環境が、母語の場合はあるからです。(『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』針生悦子 中公新書ラクレ P194 より)

現在、教育指導要領の改訂に伴い、英語学習が大きく注目されています。そのカギは…実は…子どもが母語をおぼえるしくみに秘訣があります。つまり、日本人ならまずは日本語を流暢に操れるようになるまでのプロセスです。子どもは、必要だからことばを学ぶのです。その実態を読み解いていき、子育てにかかわるものが出来ることは何かを感じていただきたいと特集を組みました。

●針生悦子『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』 中公新書ラクレ

「目の前のこの人と遊びたい、この人が何をしようとしているのか、何を伝えようとしているのかが知りたい、そんな相手とのリアルなやりとりのなかでこそ、相手の話す言語は赤ちゃんにとって学ぶ必要性のあるものになる。」(本文 P184 より)つまり、母語以外は赤ちゃんにとって必要のないものであれば、学ばないということなのです。



目次

はじめに 3
 ぐいぐいとさまざまなことができるようになっていく赤ちゃん 3
 子どもはラクラクとことばを覚えているのか 5
第1章 赤ちゃんは本当に「天才」なのか 19
 子どもの母語獲得と大人の外国語学習 21
 「爆発的な勢い」とは 22
 チンパンジーと比べてみれば 24
 なぜ父は子に負けたのか 29
 大人:既に少なくとも1つの言語を知っているということ 31
 赤ちゃん:まだ何も知らないということ 33
 再び父の敗因について 37
 【まとめ】子どもは「見えないところ」で努力している 39
第2章 まず、聞く 41
 赤ちゃんの知識を調べる 43
 母語を好む新生児 46
 ことばは胎内でどう聞こえるのか 47
 リズムと言語 50

単語の聴き取りをめぐる問題 52
 音のつながり 53
 人が変わるとわからない 57
 敏感すぎるのも考えもの 58
 言語音の聞き分け一初めからできなかったのか、できなくなったのか 59
 赤ちゃんの音の聞き分けを調べる 60
 LとRの区別 64
 聞き分け能力の低下は食い止められるか 66
 なぜビデオはダメだったのか 69
 バイリンガル環境で音の聞き分けはどのように発達するのか 71
 バイリンガル環境で何が起きているのか 74
 【まとめ】赤ちゃんは「聞く」のにとっても苦労している 79

第3章 「声」から「ことば」へ 83

声はどのように発達するか 85
 声がかたばになるとき 89
 音のかたちでモノの名前かどうかを判断する赤ちゃん 91
 指さしの意味がわからない 93
 なぜ人は指をさすのか 96
 「私とあなた」の世界、「私とモノ」の世界 100
 人に支えられての学び 104
 単語の意味はどこまで?—ガバガイ問題 105
 単語の意味をめぐる「大人の常識」108
 いつ「大人の常識」に追いつくのか 113
 モノの名前だけでは文にならないから 116
 単語の種類を知る 118
 手がかりは助詞 120
 そもそも助詞を聴き取れているのか 122
 子どもは「助詞は省略できる」という事実を知っていた 125
 名詞とそれ以外との区別 126
 【まとめ】話せるようになるにはたいへんな努力が必要 128

第4章 子どもはあつという間に外国語を覚えるという誤解について 133

子どものときに覚えた言語は完璧? 135
 早いうちにアメリカに行けば英語は完璧? 136
 実際に保育園に行ってみると 138
 やりとりの始まり 141
 6か月目のやりとり 144
 会話に参加することの難しさ 146
 6か月での到達点 150
 それで“あつという間に”というのは本当だったのか 153
 なぜ私たちはそのように思い込んでいたのか 156
 検証その1:なぜウワサが流れたのか 157
 検証その2:本当に母語は苦労なく身につけられたのか 159
 検証その3:早く始めれば完璧になるのか 164
 そのとき母語はどうなったのか 165
 【まとめ】子どもも母語以外の言語環境に入るのは「辛い」 168
終章 必要だから、学ぶ 173
 子どもでも言語習得の道のりはとても険しい 175
 忘れてはいけない母語と新しい言語との関係 178
 言語学習は抽象的である 180
 必要と感じられるからこそ 183
 バイリンガルのなかにモノリンガルが2人入っているわけではない 184
 子どもも「選ぶ」 186
 子ども時代に経験した言語の影響は残っているのか 191
 天は自ら助くる者を助く 194
おわりに 199

●今井むつみ 『ことばの発達の謎を解く』

ちくまフライマリー新書

子どものことばの発達の過程をたどることは、ことばを「使う」ためにことばの意味について何を知らなければならないのかを、私たちに教えてくれます。それはとりもなおさず、私たちが外国語を学ぶ時に、一つ一つの単語について何を知らなければならないのかを教えてくれる、ということです。母語であれ、外国語であれ、ことばを使うためには何を知らなければならないのかを一緒に考えていきましょう。(本文 はじめにより)



目次

はじめに 3

第1章 アラミルクガホシノネー単語の発見 17

1 お母さんのおなかの中ではじまる言語の学習 17
“she”と“see”一言語によって違う音の単位/“race”と“lace”が聞き分けられないわけ—カテゴリー知覚/いづごろ音素のカテゴリーができるのか

2 人の声から単語を見つける 25
リズムとイントネーションを使う/「チガガ出た」—単語と機能語の区別に気づく/単語をつくる音のパターンを分析する

コラム①赤ちゃんの持つ知識をどのように知ることができるのか 35

第2章 ヘレン・ケラーの water 事件—ことばの世界の扉を開ける 38

1 ことばの洞察 38
ヘレン・ケラーの話/チンパンジーの研究から

2 赤ちゃんの「思い込み」 44
単語の意味を教えられるのか?/湯船に落ちただけアヒル?—状況とモノを切り離す/グレープフルーツもクロー

ツサンも「おつきさま」—ことばの意味の範囲/固有名詞か普通名詞か/二歳児の考える「ネケ」の意味

3 ことばの仕組みを発見する 56
子どもにとって「似ている」モノ/「イヌと犬小屋」には同じ名前が見つからない/形がないものは別/固有名詞はあとまわし/ことばの仕組みを発見する

コラム②心の中にあることばの辞書 73

第3章 歯で唇をフム—動詞の意味の推測 76

1 動きにも名前がある—動詞と名詞の違いに気づく 76
「チモツテル」は動作のことば?/ことばの形が名詞と動詞で同じだったら

2 「アゲル」「モラウ」「クレル」—動詞の意味の複雑さ 85
「アゲル」「モラウ」「クレル」/「ウサギをチモル」と「ウサギがチモル/助詞で見極める」/目的語が省略されると……

3 「足でナゲル」—動詞の意味を一般化する時の問題 98
「ナゲル」と「ケル」/オノマトベって実はすごい

第4章 血圧がヤスイ—モノの性質、色、位置関係の名詞の学習 112

1 モノの性質の名前 112
どの性質を指すのか見極める/比較の基準が相対的/くつつく名詞によって変化する/多種多様な反対語/発達段階に即してみると

2 色の名前 126
「アオイ」か「ばんど」「ムラサキの」か「ばん一色」の名前の品詞/色の名前のつけ方は言語によって千差万別/色の地図を自分でつくる

3 位置関係の名前 133
クマの像の前はどっち—何を基準にした「前」か/「前」という語が持つ二つの視点システム/「前」「後」「左」「右」の意味の学習/「前後左右」と「東西南北」

4 まとめ—全体像がわからないと、単語の意味は学べない 148

第5章 ことばの発達の謎を解く—発見、創造、修正 152

1 ことばの発達のジレンマ 154
ことばの意味を「知る」とは/語彙という「意味のシステム」

2 発見 158
システムの存在を発見する/ことばを創るためのパーツを発見する/システムの中の「似ている」を発見する

3 創造 162
ことばを創る/学習した知識を創造的に使う/コンピュータにできないこと

4 修正 172
大人の言い方に合わせる/もうボールとは言えない/「修正」しながら単語の意味を深化させる/発見、創造、修正を繰り返す人間

5 システムが先にできていたら—外国語の学習 181

コラム③子どもは詩人か? 187

第6章 言語が思考をつくる 192

1 ことばによって新しい概念を理解する 193
「愛」という概念の理解/抽象的なことばの意味をことばで理解する

2 知識の体系をつくる 198
オカピの胃はいくつ?/ことばを頼りに「同じ種類」を決める

3 ことばが新たな概念を生む 206
数の概念/数のことばがなかったら

4 ことばの学習が科学的思考の基礎となる 213
ことばは一貫した基準でカテゴリーをつくる/ことばがつくる「同じ」という概念/科学的発見と「関係のアナロジー」

終章 読者のみなさんへのメッセージ 226
参考にした本、読者におすすめしたい本、論文など 234

●今井むつみ 針生悦子 「言葉をおぼえるしくみ」 母語から外国語まで

ちくま学芸文庫



本書では名詞のみでなく動詞、形容詞、助数詞など幅広い語クラスを視野に入れ、それぞれの種類のことば学習について1章ずつ設け、子どもの語彙獲得に焦点を当て、ことばを覚えるしくみを解いている。そして外国語で単語の意味を学び、語彙をつくっていく過程が母語で語彙を構築していく過程とどのように違うのかを議論…。外国語での語彙学習の問題と学習方法へのヒントを与えてくれる。

目次

第1章 はじめに 13

第2章 単語の切り出し—ことばの学習のために子どもが最初にとること 29

第3章 モノの名前の学習 47

第4章 基礎レベルのカテゴリー名以外の名詞の学習 71

第5章 動詞の学習 111

第6章 属性をあらわす語(形容詞)の学習 155

第7章 助数詞の学習 175

第8章 擬態語の学習 203

第9章 言語構造の違いは語彙獲得にどう影響するのか 225

第10章 子どもによる語彙の構築—即時マッピングとその後の意味の再編成 273

第11章 外国語における語彙の学習 313

第12章 おわりに 347

●正高信男 『0歳児がことばを獲得するとき

行動学からのアプローチ』 中公新書



子どもがはじめてことばを話しはじめるまでの約一年間に、何が起きているのだろうか。この問題について、行動学の立場からのアプローチし、ヒトは言語を作り出すために具体的に何を進化させてきたのかという問いに対して、正高氏自身の考えをまとめたものが本書である。授乳を通しての母子間交流、おうむがえしの意味、母親語の役割等を明らかにし、赤ちゃんがことばを開花させるまでのヒミツが記されている。

パターンの比較 四ヵ月児の場合 母親からの働きかけの変化 母音様の発声を促す母親の応答 おうむがえしの効果 「模倣」の認識

第三章 はじめての声がわり 54

おとなの発声機構 新生児とチンパンジーの類似点 三ヵ月目の変化 食べながら息をすることの利点 「伝える」笑いの出現

第四章 かわいらしさの発見 72

好きな声ときらいな声 性差・年齢差を超えた普遍性 文化による相違点 有声言語と無声言語 愛情を引き起こす形態的特徴 フジ三太郎の教えるもの 最適プロポジションの適応的意義

第五章 母親語をはなしていますか？ 97

呼吸の「ゆとり」による変化 母親語とは何か

母親語の機能 なぜ模倣が容易なのか 模倣の基礎としての同調行動 赤ちゃん言葉 (Baby talk)との違い 模倣から初語発現へ

第六章 メロディーがメッセージ 120

赤ちゃんは何を聞いているのか？ ことばのなかの隠されたメッセージ 個体言語としての喃語 メロディーパターンとその文脈 ことばの果たす三つの機能的役割 ことばで働きかけることを学ぶ

第七章 ホモ・ロクエンスの系譜 141

コミュニケーションの三類型 ニホンザルの「会話」「方言」の存在 母親語の起源 音声による指示機能 活発な社会的交換が人類言語を生んだ？ おわりに

あとがき 175

参考文献 182

目次

はじめに

第一章 くちびるは赤ちゃんの心の窓である 3

おかあさんの声を聞き分けるのか？ 「馴れ」からの回復 なぜ吸うのをやめるのか？ おかあさんの反応 社会的交渉の源初形態 呼びかけの発生 くちびるは心の窓である

第二章 おうむがえしの意義 29

二つの観察場面の設定 乳児の発声

●正高信男 『子どもはことばをからだで覚える

メロディから意味の世界へ』 中公新書



幼い子どものための歌やおはなしというのは、文化の差異を問わず、地球上にあまねく存在するもののように思われる。大人はそれらをいくどとなく、繰り返し繰り返しうたったり話して聞かせたりして育児をするのが普通であった。(本文 はじめにより) このことを行動学からアプローチし結果をまとめたものが本書である。うたい、話しかけてやることは、赤ちゃんにとって無条件に心地よいものであり、それがことばへのレッスンの出発点になっていることを明らかにした。

らの解放 赤ちゃん言葉 (Baby talk) の効用

第三章 発生はリズムにのって 63

クレーンから喃語へ 音声発達の連続性 新生児が笑わない理由 笑いの発達の変化 喃語とリズム的な身体運動の同期現象 笑の系統的起源 チンパンジーの方言の意義 先天性の聴覚障害を持つ子どもの音声発達 「手による喃語」の発生 ことばの根底にある身体感覚 声の文化と手の文化

第四章 「指さし」ができるようになる理由 95

三項関係の形成 指さしができるまで 指立て行動の出現 指さしは生後三ヵ月で萌芽する 指さしは偶発的に学習される 暗黙的な知性によって0歳児の行動を知覚する 「かわいらしさ」の新解釈 「大人らしさ」とのギャップ 一歳児の指さし行動を観察する 大人の誤解が指さしを形づくる 他者の指さしの理解のはじまり

第五章 ことばの意味はどのように把握されるのか 123

対象物の属性の絞り込み 三つの「制約」「制約」の概念の限界 身体動作にもとづく意味の絞り込み 「身ぶり」の果たす役割 ウィリアムズ症の子どもの語彙理解 ウィリアムズ症と「言語モジュール」論 「多弁」傾向の実態 ワーキング・メモリーの果たす役割 言語習得はどこまでモジュール的か

第六章 子どもはことばをからだで覚える 149

ことばの意味の状況依存性 視点(移動)動詞の使用法 他者の視点の取得 身体の動きを分析する 身体運動と発話内容の不一致の意味 「心の理論」の獲得との関係 「からだ的思考」と言語習得

少し長いあとがき 171

テキスト偏重の言語観 テキストとしての言語と音楽の対位的関係 言語と音楽の時代的な変遷 教養の崩壊と言語観の変質 本当のあとがき

参考文献 189

目次

はじめに

第一章 赤ちゃんはなぜ歌が好きか 1

胎児の音声コミュニケーション メッセージとしてのメロディー 新生児の音楽知覚 モーツァルトへの生得的な好み なぜ協和音は好まれるのか？ 言語音声の選り好み 赤ちゃんの主體的な言語習得 子ども向けの歌と大人向けの歌 子ども向けの歌への選り好み

第二章 記憶することのはじまり 33

語彙知覚の前提としての分節化 ソープとトレハブの実験 聴覚の次元でのゲシュタルト知覚 ゲシュタルト知覚による歌の分節化 歌からの単語の「切り出し」 歌のなかの語彙の切り出し 長期語彙記憶の形成 メロディーから音素への注意のシフト メロディーか

「世界のともだち フランス」 09

“おしゃれ大好きプリュヌ”

写真・文 MIKA POSA / 偕成社



フランスの首都パリ郊外、セーヌ・エ・マルヌ県。美しい川が流れ、緑豊かな町に10才のプリュヌは住んでいます。プリュヌはお母さんと弟の3人家族です。1年ほど前に、プリュヌの両親は別々の家ですることを決めたので、お父さんとは離れて暮らしています。お母さんはアーティストでパリにアトリエをもって創作活動をしています。幼稚園に通う弟は元気いっぱい自己主張が強いこともあります。お母さんとプリュヌはかわいい弟を大切にしています。プリュヌのふだんの食事は、パンと飲み物の朝ごはん、サンドイッチなどを食べる昼ごはん、肉料理と野菜のつけあわせの夕ごはん、食事の内容はシンプルです。これが一般的な家庭の食生活ですが、フランスでは食材にこだわりがあります。農業が盛んなフランスの食糧自給率は約120%、野菜や果物は近くの農家で作られた新鮮なものがいつでも安く手に入ります。プリュヌたちにも、親しくしている八百屋さんや肉屋さんがあります。フランスの家庭料理ではさとうなどの甘い調味料をほとんど使わないので、その分デザートで甘いものを食べます。フランスではお父さんやお母さんといっしょにケーキ作りをする家が多いので、男の子も女の子もお菓子作りに親しんでいます。プリュヌは学校が大好きです。月、火、木、金曜の4日間が学校の日で、週3日お休みです。休みが多い分1日の授業時間が長いのは、フランスの学校の特徴です。ふだんは学校から帰ってくるのが夕方になるので、放課後に友達と遊ぶ時間は限られています。短い時間のなかでも、川沿いで友だちとおしゃべりしたり、お人形で遊んだり、いっしょに宿題をするのは楽しいひとときです。家のまわりには自然が多いので、春には花をつみ、秋には木の実を拾って季節を感じながら遊んでいます。毎週木曜日には家から車で20分ほどのところにある乗馬教室に通っています。プリュヌの相棒は「クイック」という名前のちょっと食いしん坊の馬です。心地よい風がふく草原で乗馬するのは最高の気分です。料金も手頃なので、乗馬は子どもたちに人気の習い事です。プリュヌがいまいちばん興味を持っているのはファッションとダンスです。5才からファッションモデルの仕事をしているので、服の組み合わせを考えるのが大好きです。プリュヌは将来もこの仕事をしたいと思っています。モデル以外だったら小学校の先生になって子どもたちにいろいろなことを教えてあげたいという夢もっています。モデルの仕事でパリに行くたびに、プリュヌはわくわくします。これからは美しい芸術や、かっこいいファッションにかこまれ、プリュヌは自分の好きなものを探しつづけるでしょう。そんなおしゃれで好奇心旺盛な世界のともだちの日常をぜひ覗いてみてください。

「世界のともだち バングラデシュ」 10

“わんぱくアシフと青い自転車”

写真・文 石川 直樹 / 偕成社



バングラデシュの首都ダッカ。その街を流れるガンジス川を渡った所にある街に6歳のアシフは両親と共に暮らしています。お姉さんは、ほかの街へお嫁に行ってしまう、今は家にはいません。この辺りでは、いくつかの家族が集まり、ひとりぼっちになることは決してありません。アシフの家はたったひとつの部屋しかなく、大きなベッドが部屋の半分を占めている小さなお家です。部屋には水道がないので、洗面所も台所も共同です。ご飯を作ってくれるのは、お母さんとはかぎりません。同じたてものでくらししているお姉さんたちが共同の台所で食事を作ってくれるのです。電気は通っていますが、ガスがないので火はたきぎでおこします。タルカリという名前のカレーはみんなの大好物。鶏肉や魚や野菜や豆などを入れて、色々な種類のタルカリを作ります。それを、練った小麦粉を丸くのぼして揚げたポロタや、油を使わずに焼いたルティなどと一緒に手を使って食べます。アシフの宝物は青い自転車。家の横にある鳩小屋にしまっています。アシフは自転車に乗って友達と遊ぶのが大好きです。家の

近くにある大きな空き地を自転車でぐるぐるまわりながら、つぎつぎと友達に声をかけていきます。街には、本当に沢山の子ども達がいる、コマまわしやおままごと、おいかけっこやかくれんぼなど、みんながよく知っている遊びに夢中になっています。ほとんどの家にはテレビがないので、一軒の屋台でテレビがうつり始めると。黒山の人だかりができます。アシフはそれに加わってテレビを見つめたり、床屋さんの軒先でおしゃべりに加わったり、目の前にあらわれた鶏をおいかけたりもしています。アシフの街にはふたつの学校があります。ひとつは「マサドラ」とよばれるイスラム神学校で、コーランの教えを中心に、イスラム世界のことを学びます。マサドラには男の子しか入れず、先生も男性のみです。もうひとつの学校は、わたしたちもよく知っているような小学校です。アシフが通っているのはこの小学校です。アシフの家には机がないので、ベッドの上で勉強をします。最近では文字の練習にはげんでいます。好きな科目は算数で、嫌いな科目は国語（ベンガル語）。バングラデシュには貧しくて学校に通えない子どもたちも沢山いるので、こうして勉強できるアシフは幸せなのかもしれません。アシフに将来の夢をたずねても、首をかしげるばかり。まだ、大人になってからのことはわからないようです。お父さんはエンジニアや学校の先生になってほしいと願っているようですが、さてどうなることでしょうか。そんな元気いっばいな世界のお友達の日常をぜひ覗いてみてください。

□メキシコ旅行 5日目 ~2019年5月4日(土)~

メキシコシティ滞在の後半は、加速度を増したかのように時間が過ぎていった。5月4日はメキシコシティから1時間のところにある、ティオティワカンのピラミッドへ。到着翌日と同じく、家族総勢10名で出かけた。かつてバックパックをかついでまわった、マチュピチュやギザのピラミッド、ペトラ遺跡もそうだったが、遺跡巡りには、とにかく体力が必要。初めは写真でしか見たことのない光景に出会えるワクワク感に胸躍らせて向かうのだが、炎天下、延々と続く道のりに、旅の後半あたりから足取りは重くなり、口数も減っていく。ティオティワカンのピラミッドは、すでに数回訪問したことがあったので、日焼け止めをたっぷりつけて、帽子、サングラス、ペットボトルを常忘れずに、あまり気負わずに出かけることにした。駐車場から一つ目のピラミッド「太陽のピラミッド」まで、死者の道を延々と歩く。道の両側には露天が出ており、早速、鳥の声を模した音を出す笛を入手する息子。いとこと一緒に笛を吹きながら、ピラミッドまでの道をガイドブックを見ながら歩き出す。家族には女性が多く、みんながそれぞれに露天を見ながら値段を交渉したりしているので、ピラミッドまでの道のりはまだ長いというのに、なかなか前に進まない。日本人のツアーだったらこうはならないだろうと思いながら、あくまでもメキシコ人のペースで進む。息子はピラミッドの前に着くまでに、ジャガーの音を出す笛も買ってもらっていた。ところで、ピラミッドといえば、日本人にはエジプト、ギザのピラミッドの方が有名なのではないかと思うが、このティオティワカンのピラミッドには登ることができる。そして登れるピラミッドとしては、世界一大きいらしい。真下からピラミッドを見上げると、写真で見るとより、はるかに傾斜が急なことにも気がつく。下で待っているという義母と母を残して、全248段の階段を、休みながら登っていった。ピラミッド頂上からは、遺跡全体を見渡すことができる。初めて来た時は、何か特別なエネルギーを感じられるかと、ピラミッドの中心に寝転んでみたような記憶があるが、数回目となると、感動が薄れてしまうのは否めない。一通りみんなで写真を撮った後、笛を取り出して吹き始めた息子の横に座ると、「さっきガイドブックで見たところ」と、気になっていた遺跡を、指を指して教えてくれた。おしゃべりや笛に夢中で、遺跡なんてあまり目に入っていないんじゃないかと内心疑っていたが、彼にとって大事なところはキチンとチェックしているようだ。前回、日本に帰国する直前にここへ来た時のことは、息子の記憶には残っていない。今回のこのピラミッド訪問は、どんなふうに息子の記憶に残るのかなと思いつつ、ピラミッドを降りた。「太陽のピラミッド」の少し先に、「月のピラミッド」という、もう一つの少し小さいピラミッドがある。けれども、それにも登ろうという家族は誰もいなく、ピラミッドの裏側から駐車場までの道のりをまた延々と歩いて帰途についた。メキシコ人は、基本的に頑張りすぎず、のんびりしている。遺跡全体を見てまわったことのある私には、ここまで来て太陽のピラミッドだけ見て帰るのはもったいないんじゃないか、という気持ちもよぎったが、きつと息子は、また見たくなったら、いつの日かここに帰ってくるんだろう。この日も、メキシコシティに戻ると意気揚々と、いとこに声をかけて、一緒におばあちゃんの家にお泊まりをした。



□メキシコ旅行 6日目 ~2019年5月5日(日)~

遅めの朝ごはんを、義母の家のそばにあるメルカド（市場）で食べる。ごちゃごちゃした所、人混みが嫌いな主人は、メキシコ在住時、メルカドやチアンギス道路を封鎖して開く青空市場に行くのを嫌っていたが、メルカドは、活気があって、メキシコらしさ溢れる、私が好きな場所のひとつである。広い建物の中に、八百屋、果物屋、肉屋（牛肉、豚肉、鶏肉、それぞれお店が違う）、お菓子屋、アイス屋、金物屋、雑貨屋、香辛料を売るお店、子供用の仮装衣装のお店など、ありとあらゆるお店が並んでいる。今年の夏の自由研究に使えるかもしれないから、メキシコでいっぱい写真を撮ろう、と出発前に息子と話していたのに、息子はこの旅の間、メキシコの家族との話に夢中で写真のことなんてすっかり忘れてしまっている。私が義母に、夏休みの宿題用にメキシコらしい写真を撮って帰りたいと話すと、顔見知りのお店に次々と声をかけてくれたので、息子に代わって写真を撮ってまわった日本のみんなに写真を見せるならと、次々とまな板に乗っていたお肉を片付けて、撮影用に整えてくれたお肉屋さんもあり、メルカドの強面なおじさんのお茶目な一面を見た気がした。

朝ごはんの後、日本帰国後に亡くなった息子のひいおばあちゃんのお墓のある教会へ。Basilica de Guadalupe（グアダルーペ寺院）というローマ法王 Juan Pablo（ヨハネ・パウロ2世）も訪問したことがある、有名な教会だ。ずっと車で移動していると見られる光景に限られるからと、今日はメトロ（地下鉄）とメトロバスで出かけることにする。メキシコ在住時も、安全面を心配してほとんど乗ることがなかったメトロ。息子は、メトロに乗ってすぐ、突然車内に現れた物売りのお兄さんにびっくりする。明らかに最初は、大声で怒鳴るように喋り出したお兄さんに、何を始めるのかと怖気づいていたのだが、粘土のようなものを丸めたボールみたいなおもちゃが自分の方に転がってくると飛びついて拾い、主人に「欲しいか」と聞かれると、迷わずうなづき、お兄さんにコインを渡しに行く。お墓は日本の納骨堂のようなところで、名前が刻まれた石を手で撫でて、お参りをしていた。主人は基本的にものすごく信仰心の薄い人だけれど、息子にカトリックのお祈りの仕方を教えていた。お墓参りの後は、メトロバスに乗って、メキシコの旧市街にある、Bellas Artes（メキシコ国立芸術院=オペラハウス）と Zocalo（ソカロ=憲法広場）を目指す。Zocalo は私にとってはとても思い出深い場所だ。キューバ（サルサダンス）にはまっていた20代後半、初めての海外一人旅でキューバを訪問した際、トランジットでメキシコに立ち寄った。その時、当時オアハカに留学していた

<<国境を越えて>>

日本人留学生に連れて来てもらったのが、この Zocalo。当時はキューバに興味があって、ほとんど知識のない状態で訪れたメキシコだったが、Zocalo の半端ない大きさ、国立宮殿内の Diego Rivera の壁画にメキシコの歴史を見て、感動したことを今でもはっきり覚えている。ところで、やっぱりメキシコ。Basilica から Bellas Artes までメトロブスに乗ろうと、バス停（一応ホームがある）で待つものの、いっこうにメトロブスはやってこない。反対方向のメトロブスは何本も通過していくというのに、こちら方面は全くで、結局 30 分近くも待つ羽目に。行列はどんどん長くなり、ホームから人がはみ出すほどの長蛇の列となった。ようやく到着したメトロブスも混んでいて、列の前方にいた私たちはともかく、全員乗り切れなかったのではないかと思う。

満員のメトロブスに乗ってから、突然、息子が思いつめたように、「日本には帰りたくない。日本は真面目すぎる」と言い始めた。それを受けて主人が、「そうだよ」と。メキシコの方がみんな幸せそうだろうと、誇らし気に話し始める。確かに今回のメキシコ滞在中、息子は家族のみんなに大切にされ、温かさに包まれ、普段は主人としか会話をするチャンスのないスペイン語で、みんなとちゃんとコミュニケーションを取ることができた。でも、今はバケーション。メキシコでも小学生は勉強をしなくては行けないし、治安が悪いため、日本のように自由に友達と遊ぶことはできない。地下鉄やバスの時刻表はなく、急いでいても、今日のように長く待たされることもある。車があれば、便利な生活はできるが、道は整備不良で大きな穴が空いていたり、警察が突然道を封鎖し、大渋滞が起きることも珍しくない。

またメキシコに遊びに来よう、それまで、またスペイン語も頑張るんだよと言いつけて、旧市街に向かった。この日は、一日に四季があると言われるメキシコシティの気候をよく表したような日で、暑くて Bellas Artes 横の噴水で水遊びをした直後に、突然夕立のような雨が降り始めた。みんな慌てて、建物の軒下に避難。急に軒下は人で溢れかえる。すると、突然、どこにいたのか、雨合羽を売る人、傘を売る人が現れる。彼らがきちんと税金を納めているとは思えないが、とにかくこうしたメキシコ人のたくましさには脱帽するばかり。息子にも、一体今までどこにいたんだろうね、と話しかける。きつこうした、日本にはないアウトな感じも息子の目には魅力的に映るのだろう。その気持ちは痛いほど分かる、でも暮らすとなると、いろいろ問題も多い…息子はこの先日本で教育を受けて育ち、でも、どこかでまたメキシコに戻りたいと思う時期がくるのだろうか。そうだとすると、それはいつ頃なんだろうかという考えが私の頭をよぎった。

Zocalo には、遅い昼ごはんの後で立ち寄ったため、到着したのは夕刻で、大きな国旗の掲揚の儀式も終わっていた。そしてここにもキラキラ光るテープをつけたスーパーボールを売る物売りが…息子はまたもや、周りの建物なんて何も気にしないで、このだだっ広い広場で、スーパーボールを投げて遊び始めた。とは言っても、その後隣接する Templo Mayor（テンプロ マヨール）という遺跡の前を通った時には、すでに入り口は閉まっていたが、中を覗き混んでいたし、Catedral（メトロポリタン大聖堂）の下に、昔のピラミッドの跡があると教えてあげたら、興味深気に覗き込んでいた（雨上がりの湿気でガラスが曇り、結局見えなかったのだけれど）。これで無事に一日が終わればよかったのだけれど、なんと Zocalo のそばで拾ったタクシー 2 台のうちの 1 台の運転が非常に荒く、野良犬を跳ねてしまった。私は後方のタクシーの後部座席に乗っていて気づかなかったのだけれど、主人と義姉は目撃し、タクシードライバーと興奮しながら話をしていて。そして、前方の犬を跳ねた車に乗っていた母と息子。息子は後部座席にいて、メキシコのおばあちゃんと話をしていて、気がつかないらしい。母は運悪く助手席に座っており、運転の荒さにびっくりしていたうえに、運転手が犬を跳ねた後、言い訳がましく、スペイン語でまくし立てたので、それはもうびっくりしたらしい。このタクシーに携帯電話を落としてしまい、その後みんなで電話をかけたり、なんとか探そうとしたが結局、出てくることはなかった。メキシコでは、失くしたものは基本的に出てこないものである。残り一日となったメキシコ滞在を最後まで楽しむため、またおばあちゃんの家泊まるという息子を残し、主人と母と私の 3 人は、なんとなく携帯をなくしたバツの悪さもあり、レストランでビールを飲んでから宿に戻った。メキシコシティ滞在中も、実質明日が最終日。主人が元職場のみんなに会いに行くのに、息子を連れて行きたいというので、母と私は別行動をすることにした。●ナオキ君(小 4)のお母さんからの VOICE ■この項つづく

ロドイツ旅行記 ～2 年ぶりのドイツで回想する～



<ブランデンブルク門>

「ああ、ドイツの匂いがする。」フランクフルト空港に降り立った瞬間、そう感じた。最後にドイツを訪れたのは、息子が小学 4 年生の冬だったので、ちょうど 2 年ぶりである。今回我々は、ボン、ベルリン、ハンブルクの 3 都市を訪れた。中でもベルリンには 4 泊と一番長く滞在した。息子は短期長期合わせて 6 度目のドイツ、2 度目のベルリンだ。最初のベルリンは年少の秋だった。当時もブランデンブルク門やベルリン大聖堂を訪れたが、もう覚えていないらしい。滞在中に石川先生から「何かドイツらしい写真を送ってください。」と依頼があり、普段あまり写真を撮らない私は慌てて何かそれらしい写真はないかと探した。ちょうど、夕暮れ時にブランデンブルク門をバックに撮った写真があったので、早速送信した。明るい昼間に見るよりも、薄暗い中にそびえ立つそれは、荘厳さが際立っていた。ブランデンブルク門は、かつての東ベルリン西端に位置し、東西ベルリンの境界線近くにあったため、一般の東ベルリン市民は近づくことすら許されなかったそうだ。今ここで外国から来た我々のような観光客が、門を背景ににっこり笑って記念撮影をする日が来ることなど、分断当時の東ベルリン市民は夢にも思わなかっただろう。

東西ドイツ分断の話になるといつも思い出す逸話がある。話を随分巻き戻して 15 年ほど前、私はワーキングホリデー制度を利用して、ニュージーランドに 1 年弱滞在し、バックパッカー用の宿で住み込みの雑用係として働いていた。同じくワー

ホリで滞在中の同僚数人とは、偶然にも皆同じ年ということもあって、気が合った。その中に、旧東ドイツ・ドレスデン出身の青年が居た。日本で、映画「グッバイレーニン」(製作・ドイツ、日本公開・2004年)を半ばコメディイを見る感覚で楽しんでいた私は、彼に「東ドイツの頃って本当にあの映画のようだった?」と軽い気持ちで尋ねたところ、彼はいつになくまじめな顔で「そう。あのまんま。」と答えた。(実際には会話は英語だが。)「ベルリンの壁が崩壊したのは13歳の時。缶入りのコカ・コーラを初めて見たのは14歳。それまでは瓶入りの物しか見たことがなくて、プルタブの開け方も分からなかった。キーウィフルーツを初めて見たのも、壁崩壊のずっと後だった。」と話



<ホーネッカーとブレジネフの熱いキス>

してくれた。本人も「今はそこら中にキーウィフルーツが転がっているのにね。」と冗談交じりに言って、皆で笑った記憶がある。注) ニュージーランドはキーウィフルーツの一大生産地。彼の話聞いて、あの映画の内容が単なる作られた喜劇ではなく、目の前にいるこの同い年の青年があのような時代背景の中で生活していたのだという事実で改めて驚き、そして同じだけの年数を自分が日本という平和な国と時代にぼんやりと生きてきたことに対する、罪悪感とも焦燥感とも言えぬ、得体のしれない感覚に陥ったのを覚えている。彼が13歳まで育ったのは、自由に国外旅行することは許されなかった旧東ドイツ。そんな彼が現在もニュージーランドで自由な生活を楽しんでいるのには、きっと大きな意味があるのだろう。

さて、話を息子に戻そう。息子は、ドイツに来る前たまたま、ベルリンが舞台の「星空ロック」(那須田淳著、あすなろ書房、2013年)という本を読んでいて、ベルリンの歴史的背景も少し描写されている小説だ。ブランデンブルク門の前で、「ケチル(登場人物の仇名)に出てくる門?」と聞いてきた。何となく物語の背景と現実がつながった風である。今の息子は、ドイツがかつて東西に分断していた歴史があることを、少なからず知っている(はず!?)なので、彼なりに意味のある滞在になったかと思う。

もう一つ、ドイツならではの話を。ベルリンから電車で南東へ少し足をのぼし、Cottbus(コットブス)という小さな町へサッカー4部リーグ(正確にはレギオナルリーグと言う)の試合を観に行っただ。4部リーグといっただけ侮るなかれ!ドイツ人のサッカー熱はものすごい!地元のチームであれば、例え4部といえども、その熱狂ぶりはブンデスリーガに勝るとも劣らない!その応援の迫力に圧倒されながらも試合を楽しんでいると、体の大きな欧州選手に交じって、一際小柄なアジア系のよく走る選手が目についた。相手チームFCヴィクトリア1889(ベルリン)に所属する日本人選手だった。彼はブンデスリーガで活躍する有名選手とは違い、Jリーグでのプレー経験も無く、自身の夢と人生をかけて、はるか遠いドイツへ単身渡ってきた苦労人であることを、後にインターネットの記事で知った。この選手の活躍もあって、コットブスの追加点が入らなかったのも、コットブスファンからは大ブーイングだったのだが、体の大きな欧州選手を相手に何度も倒されたり押さえ込まれたりしながらも、諦めずに立ち上がってボールを追う姿を目の当たりにし、異国で頑張る日本人を誇らしく思った。

試合観戦後、コットブスのレストランで夕食をとっている時、小学1年の娘が急に「あっ!歯がどこかへ行っちゃった!」と言った時には一同驚いた!ポテトフライを食べている時に、グラグラしていた上の歯が抜けて、どうもポテトと一緒にそのまま飲み込んでしまったらしい。「歯を食べちゃったらどうなるの?」と不安そうにしている娘に「うんちと一緒に出てくるから大丈夫だよ。」と言うと、「ああ良かった!」と安心した様子だったことも、今となっては良い思い出である。

旅の終わり、思い出の地ハンブルクで、私は自宅用のお土産に一枚の地図を買った。欧州が中央に、日本は右の端に配置された、ドイツ語版世界地図である。同じ世界地図でも、どの国(地域)を中央に持ってくるかで、随分印象が違う。同じ物・事象でも、視点を変えてみると、それぞれの立場の違いや各々が抱える問題など、新しい気づきがあることだろう。まだまだ子どもで、自己主張の強い部分がある息子だが、これからは、物事を多角的に捉えられる広い視野と、周囲を思いやれる広い心を持って成長して行って欲しいと願いつつ、私の投稿を終わりにしたい。●ソウシ君(小6)のお母さんからのVOICE■

□苦手克服には時間と後戻り作戦!とにかく楽しく一緒に! ~私立小学校受験へのステップ⑨~

◆年中3月の終わり頃になると、出題される範囲を一巡します。ここまでくると、子どもの得意なものや苦手なものが大体わかってきます。娘はお話の記憶や、言葉、しりとり、かずの操作、図画工作、など得意な問題は次から次にやりたがりました。ですが、パズルや図形、つみきになると途端に興味を失せ、「わかんないよ~」「どうしたらできるの?おしえてよ~」と考えもせずに言うのでした。娘が目指している小学校はすべてペーパー問題がありますし、図形問題も高頻度で出題されます。これではいけない…と思い、いろんな参考書を見ては購入し、娘に与えていました。間違っただけの問題は何度も…でも、ふと思ったのです。「嫌いなものを、同じやり方で何回もやって楽しいかな…」「その問題はできても、同じような違う問題が出来ていないのは、暗記しているだけで、理解できていないし考えていないんじゃないかな…」と。得意なものやそうでないもの…なぜこんなに差がひらいたのか考えました。得意なこととはなぜ得意なのか…。考えてみると、得意なことは家族で楽しんで触れていたことと繋がっていたのです。絵本の読み聞かせをしたあと、「クイズ♪クイズ♪」と再話を取りいれたり、絵のない読み聞かせでイメージしたものを絵にかいたりと一緒に楽しくなりました。石川塾の遠足で四季の移り変わりを身をもって体験し一緒に頑張りました。お料理や、お菓子づくりもよくやりました。科学館や博物館、水族館に動物園ピクニック気分で見学しながらいろんなものを見て、触れて、感じて…。家では、自由工作用にストックしたBOXに色々な資材を入れ、工作セットという名の衣装ケースには、とにかくいろんな道具を必要に応じて追加し、一緒に作ったり飾ったり遊んだり…して…。とにかく一緒に楽しく遊んだり触れたりしたことが得意につながっていると感じました。苦手なことに関しては、やはりあまり触れ

<<千の声 VOICE>>

ていなかったと思います。積み木やパズルも小さい時から与えましたが、あまり興味を示さなかったのも、一緒に楽しむこともあまりなかったと思います。その時に、一緒に楽しむ方法をもう少し考え接し続けていたら…と思いました。なので、その頃に戻ったつもりで、ペーパーはやめてとにかく「面白そう！」と思うものを一緒にやりました。中でも面白いと一人でも取り組んだのは、理英会の“かたち博士”“プレイボード”タカラトミーの“ジェンガ”“パターンブロック”ブックオフで偶然見つけた“200枚の板”一緒にねばり強く完成させたレゴブロックの“レゴフレンズ遊園地”…。少しずつ図形問題もやる気になり、できるようになっていきました。その間、他のできる問題はもっとやらせたい気持ちをぐっと堪え、幼児塾の宿題と復習程度にとどめ、図形問題に費やす時間に使いました。夏まで、とにかく苦手を克服することに重きをおいて遠足でたまに息抜きしながら過ごしました。●リホさん(小2)のお母さんからの VOICE■

口娘の歩み ～足し算の百マス計算 19分47秒から5分10秒へ短縮～

昨年ピカピカの一年生になり毎日楽しく登校していましたが、ここにきて突然の新型コロナウイルスによる休校。三学期は一年間の締めくくりで行事も多くお世話になった六年生の「六年生を送る会」も楽しみにしていたのに残念です。石川塾はコロナに負けず開講してくださり大変ありがたいです。

一年間石川塾で勉強したことを振り返ってみます。塾に着いて始めに取り掛かるのは音読です。詩を朗読し暗唱します。間違えず唱えると合格です。四月に初級スタート。草野心平の「春のうた」金子みすゞ「わたしと小鳥とすずと」、宮沢賢治「雨ニモマケズ」夏目漱石「坊ちゃん」などなど。長文で苦勞することもありましたが地道にクリア。二月から中級に。山之口獏「天」に取り掛かっています。その次には齊藤孝監修の「1分間の速音読」です。太宰治の「走れメロス」をタイムを計って音読しています。「百ます計算」の足し算は初めて挑戦した日は19分47秒かかりましたが毎回タイムを縮めて前は5分10秒でした！昨年6月開催の算数検定「11級」と10月に行われた漢字検定「10級」は過去問を何度も何度も練習し合格しました。最近では2年生の漢字練習を始めています。●ナナミさん(小1)のお母さんからの VOICE■

口令和になったよ、小学二年生 ～二年連続書初めクラス代表、累計で54篇の詩歌を暗唱～

家から徒歩5分の市立小学校に通うのも2年目の息子。朝は鉄砲玉のように家を飛び出して行く。近いのだからそう慌てなくてもと思う。急ぐ理由は、一緒に登校する友達と学校までのたったわずかの道すがらおしゃべりしたいからだ。兄のように接してくれるその友を私の一人息子は大事に思っている。この時が一日の一番のハイライトかもと思う位の勢いだ。一方、学校では、悔しいことやうまくいかない事もあるようだが、中でも漢字の書きとりを頑張り、二年続けて書初めクラス代表に選ばれた。家事は主に風呂掃除と布団敷きを任せている。今、習い事は二つ。石川塾と幼稚園から続いている運動教室が週に一日ずつ。それ以外は概ね近所の年近い子供達と道や家で遊んでいる。昭和の時代のように近所の子供達が溜まれる場所はそうはない。外で近所となると狭い路地での遊びとなり近所との軋轢を生まないよう親は配慮が必要だ。しかしそんなことはお構いなしで子供達の声は鬧達に響いている。私にはご近所との付き合いや子供同士の喧嘩を通じて人間力を鍛えられつつある。秋に思い切って学校を休み、2週間親子で旅行に出かけ、息子にとって初の海外体験をした。普段とは全く違う生活環境ながら割合すぐに溶け込んで、親と離れて行動する逞しさには普段の恥ずかしがり屋からは想像できない一面を垣間見た思いである。平成と令和にかけ、私と夫は父親を続けて看取り、息子は祖父二人を亡くした。家族が減る悲しみはぬぐえないものがある。まだ生まれて8年というのに、この明るく朗らかな息子によって私たち夫婦はしっかりと支えられている。

◎二年生でコウタロウが石川塾でやったこと◎

- 1 朗読暗唱5詩歌(累計54詩歌)
- 2 公文の二年生の算数ドリル(数・量・図形、文章題 130頁)
- 3 算数検定10級の勉強と受験(7月)
- 4 6年生の四字熟語、2年生の漢字書き取り60文
- 5 イッキによめる!名作選「音読&クイズ」1年から3年まで修了

●コウタロウ君(小2)のお母さんからの VOICE■

口気ままな子育て論 ～二つの賞、才能をのばすこと、寄り添うこと～

恋に、勉強に、遊びに全力投球の娘。とにかく一生懸命に色々なことに挑戦した1年間でした。年中さんから始めたピアノ。種まきをして、日々努力を重ね小さな芽を大切に育ててきました。グレンツェンピアノコンクールでの全国大会出場。ピティナピアノコンペティションでは、地区本選で優秀賞を受賞することができました。私が声楽家として舞台上に立っているのも、赤ちゃんの頃からその練習やリハーサルには、いつも娘も同行。どんな時でも、私が歌いだすとおんぶをせがみ、生の音楽のシャワーをいっぱい浴びて育ちました。そのためか、娘には緊張感がなく、素直に表現でき、<ピアノコンクール全国大会>

舞台上に飲み込まれることがありません。また、努力することができる強さがあるように思います。コンクールはただの通過点であって、上達するための手段のひとつだと娘は思っていて取り組んでいるようです。ピアノ以外にも、娘はお絵描きが大好きです。天真爛漫な娘の描く絵は、カラフルで、表情豊かです。1年生の時に「わたしのだいすきなものであふれるせかい」という作品を、まちだMOA美術児童作品展に出品し、銀賞をいただくことができました。このとき、金賞をいう素晴らしい賞があることを知った娘は、来年は絶対に金賞を取る!!と誓いを立てました。そして翌年、2年生の夏休み。「私がピアノをひくとあふれる思い」という作品を出品。どんな思いを絵に込めたいのか。どんな構図にするのか。考えに考え抜いて描いた力作となりました。2週間以上かけて、丁寧に仕上げました。結果はハガキで届くのですが、なんと目標としていた金賞(町田市



<<千の声 VOICE>>

民病院賞)を受賞。最高の笑顔を見せてくれました。娘の発想力、想像力を育てているものとして、本の存在は欠かせません。読書が大好きで、時間さえあれば本を読んでいます。娘の目に留まった『だいじょうぶだよ、ぼくのおばあちゃん』という絵本。「私この本で読書感想文を書きたい」と涙を流して思いを伝えてくれました。おばあちゃんは数年前から病気を患い、意思の疎通ができません。どんどん色々なことを忘れていってしまう。赤ちゃんに戻っていってしまう。そう娘は認識しています。介護をしているおじいちゃんの苦労や悲しみにも触れ、大好きなおじいちゃんおばあちゃんを勇気づける言葉で溢れていました。町田市の代表として、東京都読書感想文コンクールに出していただくことができました。全校集会で校長先生に褒めてもらって、表彰してもらえたことがとても嬉しかったようです。何事も楽しみながら一生懸命取り組める。これも才能のひとつなので、大切に寄り添ってあげたいです。●ミュさん(小2)のお母さんからの VOICE■



<絵画・金賞(町田市民病院賞)>

口サクラ咲く ～中学入試体験記最終稿～

先日、2年ぶりにドイツを再訪し、帰国翌日(帰宅時既に日付が変わっていたので、正確には帰国当日)、親子で時差ボケ(冬時間はマイナス8時間)のまま中学校の新生説明会へ参加した。会場に集まったたくさんの親子を見まわし、息子は「この子たちが同級生になるのか〜!」と感慨深げな表情だ。制服の採寸では、まだ少し大きな制服を恥ずかしそうに試着しながらも「春からこれを着て通うんだね〜♪」と嬉しそうにしている。今やっと、第一志望校に合格したという実感がわいて、親子で安堵しているところだ。

入試そのものは、「あっけなく終わった。」というのが率直な感想だ。というのも、東京・神奈川で2/1から一斉に始まる「怒涛の中学入試週間」に挑む前に、一足早く「帰国生入試」を利用して戦いを終えていたからだろう。といっても、決して余裕の偏差値で帰国生入試を受けた訳ではない。国語と算数はどちらも苦手で、社会が得点源の息子にとって、「国・算2科」の帰国生入試は大きな賭けだ。ところが、国語が苦手だった(今でも国語は好きではないと言う)息子が、6年の秋以降、模試での国語偏差値がグンと高くなった。石川塾で1年半かけて温めてきた国語力が、秋以降にパッと花開いた感覚である。これ以降、帰国生入試に的を絞り、石川塾で対策を始めてもらった。石川先生からは、オーダーメイドならではのメニューの見直しが頻りにメールで届く。本番1か月を切っても、メニューの変更が送られてきた時には「えっ!?今から!?!」と正直こちらも動揺したが、もう悩んでいる暇は無いので、喰らいついていくだけだ。中でも一番私を疲弊させたのは、漢検の問題文をカタカナ文に書き直す、という私への宿題。これは本当に骨の折れる作業だった(もう二度とやりたくない)。普段PCで文章を書くことはほとんどない私は、キーボードをうつこと自体が億劫だ(なので、原稿を書いている今この時間、とても辛い...)。その上、見慣れないカタカナ文は、誤りがないか見直すだけでも異常に目が疲れ、長い時間を要した。しつこく書くようだが、私はワーキングマザーなので「家事の合間に」なんて言うほどの合間時間は無い!量が多くて一気に仕上がらないので、数日に分けて完成させた訳だが、この時ばかりはあまりの疲労感に、大学生のアルバイトでも雇って代わりに作ってもらおうか、と本気で思ったほどだ。しかし、この「カタカナ文から漢字ひらがな混じりの文へ変換する」問題は、帰国生入試で毎回出題されているため、対策をしないわけにはいかないの、何とか気力を維持して作業を終えた。その甲斐あってか、入試本番では、このカタカナ文問題をはじめ、本人が「国語はできた」という手応えを得られたので、やはり石川先生の作戦はさすがだ。

次に、約2年にわたる石川塾での中学受験生活全般を振り返ってみる。今思い出してみれば、ほとんどが[負]の感情で占められていた。自分に甘く、自己管理が苦手な息子の生活態度や隙あらばサボろうとする勉強に対する姿勢への怒り、思ったように結果が出ない時期の私自身の焦りと不安...。色々な感情が入り混じって親子ともにモヤモヤし、息子に「やる気が無いなら、やらなくていい!そのかわり中学受験そのものをやめてしまえ!!」と言って塾のテキストをぶん投げて、怒鳴り合いの大喧嘩に発展したことも一度ではない。渦中に居る時は、彼が頑張っている事実よりも、ついつい、「できていないこと」に意識が向いてしまいがちだった。よく考えれば、彼は週4日の集団塾に加え、1回3時間の石川塾を週に2日こなした。大雨でない限り、暑い日も寒い日も小雨の降る中も、坂のきつい神奈川県境の道のりを越え、自転車で通塾した。ただでさえ体力を消耗する中学受験に以ってして、この自転車通塾は大変な苦労だったと思うので、そこは素直に「よく頑張った」と褒めてやりたい。こんな風に、怒りや喜びを本人だけでなく、母(あるいは父という家庭もあるだろう)も共に味わうというのが中学受験の醍醐味、そして「親子の受験」と言われる所以だろうか。

今回の息子の中学受験を通して感じたことがある。自分が努力をしたり頑張ることは自分自身の問題なのである意味簡単だ。しかし、例え我が子といえども、自分自身ではない「他者」を「頑張らせる」のは容易なことではない。毎年首都圏では、数万人の6年生が中学受験に挑み、第一志望に合格する子は5人に1人とされている厳しい戦いだ。それでも、今こうして桜咲く春を楽しみに迎えられるのは、本人の頑張りはもちろんだが、石川先生の「(他者である)生徒を頑張らせる」忍耐強い導きにほかならない。石川先生、ありがとうございました。●ソウシ君(小6)のお母さんからの VOICE■

口ぼくの合格体験記 ～苦手な国語と算数に向き合う～

ぼくが中学受験に合格した理由は、読み書き算数塾にあると思う。まず国語だ。国語は漢字検定や要旨要約を勉強した。二年間で漢字検定は三級まで取った。要旨要約の中で「なるほど」と思った作品がある。理想の国語の教科書青版のトルストイ「人にはどれほどの土地があるか」だ。この話は、主人公パホームが日の沈むまでに丘の上に戻ってこれれば、歩いた分だけ土地がもらえるという企画?に参加する。そして日が沈む直

<<千の声 VOICE>>

前になんとかゴールできたが結局つかれきって死んでしまうという話だ。ここまでも十分伝わるが石川先生は「結局は、身の丈(身長分)しか土地はいらないってことだよ」と言ってくれた。ぼくは、まだ読みが足りないな、と少し落ちこんだ。しかし、そのおかげで**注意深く本を読むようになった。すると内容が頭に入りやすくなった。**次は算数だ。算数でやったことは、「実況中継」や「円の転がりの攻略」、「回転体の攻略」、「立方体の切断の攻略」などである。まず、実況中継というのは塾で先生が実際に話をしていることをそのまま本にした参考書である。塾の授業を本が中継しているので本の文字、数字、グラフ、表をノートに書き写す作業をする。実況中継の本には、実際の中学入試の問題を元につくられた問題と解説が載っている。書き写すことで覚える(らしい)。やってみると意外と覚えるものだ。次は、円の転がりなどのほうだ。この3つはテキストとキットらしいものがセットになった教材だ。その3つの中で一番難しかったのは、(全部難しかったが)回転体の攻略だ。問題は、ほとんど体積だから、一回一回計算しなければならない。はっきり言ってメンドクサイ。だけど、「**こういう問題ができなきゃ学校に入れない**」と思い、**頑張った。**だから、そのおかげで合格できたのだと思う。●ソウシ君(小6)からの VOICE■

□合格レポート ～中学受験は生涯に一度きりのチャンス～

中学受験を意識し始めたのは、夏音が6年生になってからです。最初のきっかけは、今の学力はどの程度なのか?と、首都圏模試を受けた事です。軽い気持ちで受けたところ、合格率60~70%の判定が出た学校が数校ありました。そこから、学校説明会や体験授業などに行き、雰囲気を見てから受験するかどうか考えようということになりました。「**公立女子第二中学校**」に決め、受験勉強を始めたのが夏休み。かなり遅いスタートです。その後も毎月首都圏模試を受けましたが、結果は、どんどん下がる一方でした。(今思えば最初の試験範囲は、授業で習ったばかりの内容だったようです)石川先生に、全てお任せしました。リタちゃん、ソウシくんが毎日頑張ってる姿を見て、自然と受験モードに入れたようです。(2人に感謝!)12月までは、お友達と遊ぶ時間も極力制限せず、柔道、英語も並行して通いました。しかし、石川先生から「**優先順位はたった一つ! 中学受験は生涯に一度きりのチャンスです。この期に及んであれもこれもありません。何回でもあるものは全て後回しです。とにかくできる限り時間を集約して下さい**」とアドバイスをいただき、1月からは受験勉強一本に集中させ、毎日塾に通いました。受験日が近づくにつれ、過去問でだんだんと合格点が取れるようになり、自信を持って本番に臨めたと思います。4回の試験に出願していましたが、1回目で合格することができました。元々体力があり、あまり風邪をひかない子ですが、受験期間も体調を崩すことなく、本当によく頑張ってくれました。石川先生、ご指導ありがとうございました! ●ナツネさん(小6)のお母さんからの VOICE■

□受験で学んだこと ～家族と同級生と先生に支えられ、努力して勝ち取った合格～

受験ではたくさんのお話を学びました。まず一つ目は、努力を怠らないことです。それは毎日コツコツと積み重ねていくと積み重ねた成績が上がっていき、コツコツやらなければ成績は下がっていくことが分かりました。二つ目は、その場しのぎにしないことです。それは、今は出来ていても時間が経つにつれ脳は忘れていき、更に受験期間は覚えることも多いため、試験当日まで記憶されることはそうないということが分かりました。そのため帰宅後に復習し、試験の一週間前あたりから念入りに過去のノートを見直したりしました。また、試験当日については、周りの受験生のプレッシャーに負けないことです。不安と緊張で圧倒されそうになったことで分かりました。周りにいる子たちもあなたと同じ気持ちだよという在校生からのメッセージに励まされ、リラックスした状態で試験に臨めました。このことを通して、無事合格できたのは日々支えてくれた家族、学力を共に高めあえた同級生、基礎から丁寧に教えてくれた石川先生のお蔭だと思います。今後も気を緩めずに、更なる学力向上に向けて頑張りたいです。●ナツネさん(小6)からの VOICE■

□我が家の子育て論 ～子ども7人のそれぞれの歩みに寄り添って～

<教育方針>子どもがやりたい!と言ったことは、できる範囲でチャレンジさせるようにしています。その中でなるべく自分達でどうするかを考えて、本人に決めてもらうようにしています。料理では「私もやりたい!」と言ってきたときに、余裕があるときは「いいよ～」と包丁を持たせ野菜を切らせてみたり、「デザート作りたい!」となれば一緒に作るのは1度だけで、2回目からは自分達で材料をそろえて自分達で本(作り方)を見て作らせています。今では、セイナ、セイア、長男は卵焼きをひとりで作り、私より上手に焼くほどです。あまり口を出さず見守っている状況です。もちろん危険になりそうな時は手伝いに入ります。自分達ですることによって、そこから学び学習していきます。また、自宅学習についてはあまり言わないよう努力していますが、あまりにもやっていないと「やらなくていいの?」と聞きます。テストで低い点数になっても、私は笑って「すごいじゃん。がんばってる、がんばってる。」と声をかけます。特にセイアですが、点数が低くお兄ちゃん達にバカにされているとき「いいの。セイアはセイアのペースがあるんだから。セイアだって出来るときは出来るんだよね～」と声をかけます。(内心は違いますがそこを抑えて…笑)同じように育てたはずなのに…やっぱり一人一人は違います。その子に合った対応を常に考えて対応するように努力しています。なぜそのような方針になったのかは理由があります。私は小さいころ、自分に自信が持てないで、家計の事情で習いたい習い事ができなかったことがありました。いつも、他の子を見て羨ましく思っていました。小学校の頃いじめにもあい、とても辛い経験をしてきました。子ども達にはそんな辛い経験をして欲しくなく、自分に自信がつくよう、また強みがある人になって欲しくて。いろんなことにチャレンジし、その中から自分の将来につながるものや才能が見えてきたらいいなあ～と思っています。そして、私はこれなら出来る!あれも知っている知識も増えて一石二鳥!その知識を活かして、将来、人の役立つことが出来る仕事にもつながるのかな～と選択肢も増える。また、何かのテストや試験があるときは、子ども達なりに緊張しています。緊張しすぎると出

来ていたことも出来なくなることがあるので、私は「頑張っ！」とは言わないようにしています。何故なら頑張っているのですから。そのテスト、試験は自分の頑張ってきたことを試す時なので、思い切って楽しんできて～と笑顔で見送ってあげた方が気持ちも楽になるはず。なので、私は「楽しんできて～！」と言うようにしています。それがどう響いたのか分かりませんが…笑。あと、お友達と一緒に遊んでいるときのケンカ、取り合いはつきものです。その時は、相手のママに承諾を得てですが、私は見守り隊に入ります。ケガをさせる手前までやらせます。たたき合うことで、彼らは学びます。取り合いすることでも嫌な気持ちも学べます。歩き出した頃に転んでしまった時も、私は決して抱きあげませんでした。自分で立ち上がれるように声かけをしました。泣きながら私のところに来た時は思い切り褒めて抱きしめました。困難な事にぶつかることが多い今後のことを考えて、自分で立ち上がれるようになって欲しい！という願いも込めて。

<石川塾と出会って>セイヤに合うような勉強方法はないか…。セイヤをやる気にさせる方法はないかと探した結果、石川塾に出会いました。体験1回目でセイヤは変わりました。机に向かう時間(集中)が増えました。そして与えられた課題も短時間で覚えられることも出ています。セイヤのやる気を引き出してくれた石川先生に感謝しています。石川塾に通い、セイヤが変わったことを友達に話したところ、友達も気になり体験し、入塾する運びとなりました。そして、家で課題をやっている姿を見て、セイヤの姉のセイナも「私も行ってみたい！」と声をあげ、体験し入塾する形となりました。また、妹のセイラ、弟のセイギも体験し「通いたい！」となり入塾しています。弟のセイギは、最初は落ち着きがなく、座る時間が少なく集中時間も短かったのですが、入塾3回目?頃から30分以上集中することができ、ミツキ先生の話もちゃんと聞くことが出来るようになりました。まだまだ難しい時期ではありますが、セイギの変化に感謝しています。セイラも数字、ひらがなを書くのが上手になり、彼女の自信にもつながり嬉しく思っています。子ども達の様子に対し、臨機応変に対応して下さり、またやさしく接してくれることに感謝しています。これからも子ども達の成長が楽しみです。そして、まだまだ長い期間お世話になる予定ですので今後もどうぞよろしくお願いいたします。

<追記>よっぽどのがないかぎり私は怒ることはしないようにしています。怒ると子ども達は委縮し何も学べないと思うので、その時は話をするようにしています。理由を聞いて理解をしてあげ、私の考えを伝えそれから子ども達に考えさせます。子ども一人一人の考えを尊重し大事にします。●ナルミさんからの VOICE■

口東日本大震災とボクができたこと② ～助けてくれた「消防士」「自衛隊員」に、将来なりたい～

2011年3月11日14時46分。人生で経験したこともないくらい長く長く揺れた。大学二年生だったボクは、春休みだったのでちょっと散らかった部屋の中で昼寝をしていた。揺れ始めて目を覚ました。いつになってもおさまる気配がないくらい長く揺れているので少し焦ってきた。急いでメガネを探したが見つからない…。部屋をキレイにしておこうと決意をした瞬間だ。無事にメガネを見つけ、外に飛び出した。この瞬間から仙台での生活が一変した。最初の一週間は食料を集めに、またガソリンを買いに走り回った。ちなみに、スーパーは長蛇の列が出来ていた。一人3点までの購入に限られていたり、在庫を一人でも多くの人たちと分け合おうと店側が配慮してくれていた。もちろんのことであるが、全てのインフラが麻痺していた。ボクの住んでいる地域では震災から三日目に電気が回復した。今でも覚えているのは、日曜の夕方に教会で礼拝をするために集まっていた。その礼拝が終わった瞬間に一気に明るくなったのだ。ちょっとだけ神様の神秘を感じた瞬間だった。一週間もするとこの生活にも慣れてきた。いよいよ、もっと被害が大きいであろう地域で出来ることをしたいと思い行動し始めた。宮城県の石巻市というところが本当に大変だということを知り、車で行ってみた。これは3月19日のことだ。石巻市に着いたのは夕方くらいだったと思う。街中が瓦礫に溢れ、道がふさがれていた。一軒家の二階に車が突き刺さっていたり、高い建物の上に大型バスがあり、街の真ん中に大きな船があった。この街そのものが津波の痛ましい被害を物語っていた。後のことだが、あるおばあちゃんが話をしてくれた。「家も家族も仕事もぜ～んぶ流されちゃった。もう何もやる気がおきない。」その言葉の前にボクは返す言葉がなかった。そう、何もかも壊れて無くなってしまったこの地域を見ながら、心が痛かった。何か出来ることをしたい。そんな思いと共に、この日からボクの東日本大震災復興ボランティアが始まった。ボランティアは所属していたキリスト教会と共に始めた。3000人を超える規模の団体だったので、炊き出し、瓦礫撤去、支援物資配布、慰問コンサートなどを毎日やり続けた。ボランティアも行く場所、やることが決まっていなくて出来ることがなかった。困っている人はあふれていた。必要なこともあふれていた。そして、それを何とかしたいと日本中、いや世界中から人々が集まって来てくれた。その人たちが活動できる場所をマッチングするのがボクの役割だった。毎日、車で20箇所くらいの避難所を回り続けた。避難所に行ったら聞き続けた。「何に困っていますか。必要なことを教えてください。何でもします。ここは炊き出し必要ですか?必要なものはありますか?どんな人たちがいますか?」などなど。そして、そこに教会のボランティアメンバーの人たちに行ってもらった。そんなことをし続けている間に、あっという間に半年が過ぎた。実はその六年後に石巻市に移り住んだ。体調不良などもあって、住んでいた時期は半年足らずであったが忘れられない日々でもあった。移り住んだ先で出会った高校生たちの言葉を最後に紹介したい。

「将来は東京消防庁で消防士になる」「自衛隊員になる」と言うのだ。どうして?とボクが聞けば、震災の時にボクたちを助けてくれた彼らがとってもカッコよくて自分も将来なりたいと思ったと言うのだ。大変なことでもあったけど、若い世代の心に大切な思いが受け継がれたのを見た。現在もボクは年に数回、石巻に行く。行くたびに一緒に笑いあえる人がいることがとても嬉しい。大切な人たちが今日も笑っていてほしい。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」(聖書)●トモミ先生からの VOICE■続

※塾長おススメの本:吉村昭「三陸海岸大津波」「関東大震災」文春文庫



アンとアナのものがたり(成長日記)

☆アン: 読書・新体操・バレエに打ち込む小学校2年生・日本史に興味を持ち始めた・4月から3年生♡

【児童英検アセット1級合格🌸英検3級10点足りず…次回6月で合格を目指す!】

毎日頑張った、児童英検アセット・英検のお勉強。結果は、児童英検1級合格、英検3級…10点足りず…。初めての3級にしてはまずまずの出来かなとふたりで話しました。本人も「合格は出来なかったけど、不安だったライティングも、半分以上の点数だし、他の問題も思い出せなかっただけで分からなかったわけじゃないから、次は…いけそうな気がする…笑」と。引き続き英検のお勉強を継続しています。石川塾の課題に関しては、百マスで大きな進歩が見られました。かけ算・割り算と1ヵ月単位で合格♡現在、余りありの割り算に挑戦中です。割り算が出来るようになったので“面積迷路スピード編”に取り組んでいます。漢字の書き取りはやっと取り組み始め、週に2回分ずつチャレンジしています。3年生の書き取りに進んだら、漢検8級の対策を始めようと話しています。くもんの国語3年生“言葉と文のきまり”が終了し、“文章の書き方”に進みました。こちらは1日1題ペースです。くもんの算数も同様“すう・りょう・ずけい”を1日1題ずつ取り組み修了。“文章題”に入りました。これが終了したら、清風堂の算数問題に入って、同時に数検9級対策をしようかと話しています。幹を太く!と、Z会の“ハイレベル文章題2年生”、文理の“トップクラス算数2年生”も1日1題ずつ取り組んでいます。コロナ休暇を使って…笑

☆アナ: 折り紙・切り絵・お絵描き・工作が大好きな5歳年中さん・4月から年長さん♡

【児童英検アセット5級合格🌸計算・図形問題に自ら取り組む】

算数ブームが続いているアナ。絵本も数字が出てくるものがお好みで…「読んで!」とせがんできたり、自分で読んだり。計算スピードも上がり、指やブロックなしで考えたがるようになりました。10までの補数の問題をいきなり出したりして見ても、すぐ答えられるように♡間違いも、なぜか喜ぶ…笑。間違いを正解にすることが魅力的?に感じているようで…わざと間違うときも…笑。間違いを見つけた時に、「自分で気づけたね!」という言葉が嬉しかったようです。「間違ってもいい!間違ったら、もう一度やってみたらいいんだよ!そうやって出来るようになっていくのよ。」と呪文のように言ってきました。この効果が出て来たようです。パターンブロックのテキスト全46項目も毎日取り組み修了したので、レベルアップ中です。英検は、約2か月試験対策をして合格しました。英会話教室の先生の教えを忠実に自分で実行!「ママ!英語の宿題やろう!」試験まで毎日自分から取り組むことが出来ました。次は、6月のかず・かたち検定ゴールド合格を目指し一緒に頑張ります。

アンが読んでいる本

『ふしぎな駄菓子屋 銭天堂』

作: 廣嶋玲子 絵: jyajya 偕成社

『氷の上のプリンセス ジュニア編』

作: 風野 潮 絵: Nardack 講談社青い鳥文庫

『ぼくのつくった魔法のすり』

作: ロアルド・ダール 絵: クェンティン・ブレイク 評論社

『学研まんが NEW 日本の歴史』全14巻

絵・まんが: 姫川 明 総監修: 大石 学 学研プラス

アナに読んでいる本(アナが読んで欲しいもの)

『じつちよりのあるくみち』

作/絵: かとうあじゅ 文溪堂

『すてきな三にんぐみ』

作/絵: トミー=アンゲラー 偕成社

『おひさまパン』

作/絵: エリサ・クレヴェン 金の星社

『いのちの木』

作/絵: ブリッタ・テッケントラップ ポプラ社

🌸パパ日記 サザエさん症候群ならぬダーウィン症候群?

日曜日は夕方からテレビの前で[ちびまる子ちゃん]→[サザエさん]の流れからNHKの[ダーウィンが来た]を子どもと一緒にみている。二つのアニメは自分も小学生の頃に同じようにみていたのでとても懐かしい。ダーウィンはあまりみたことはなかったが子どもと一緒にみることができそうだなと思い数年前からみている。動物が主役のドキュメンタリー番組で毎回様々な動物が特集される。その中でよく出てくるのは親が子どもに自立を促す場面。生まれてすぐはエサを与えたりするもののある程度したら親は子にエサを与えなくなったり親から離れるようにしむけたりする。それをみて子どもたちは「パパ、動物はすぐに親から離れて会えなくなってしまうけど人間は離れてもまた会えるからいいね」と言う。「そうだね」と答えながら親子団欒ができることの幸せを感じる。そのうちダーウィンもみなくなる時期がくると思うけれどそれまではこの時間を続けていこう。そしてダーウィンが終わる頃には明日から仕事だという現実気づかされ少しずつテンションは下がっていく……。

からだをつくる・やすめる ~肩こいをほぐしてくれる肩まわし~

新型コロナウイルスが世間を騒がせ、次々と情報が飛び交い、情報を追うためにテレビやパソコン、携帯電話とにらめっこ…。“コロナ鬱”なんて造語まで登場し、心もからだも悲鳴をあげている。少しでも、リラックスとリフレッシュに繋がれば…と探し出した簡単なエクササイズ。“肩まわし”で凝り固まった背中の筋肉をほぐして心もほぐしていただければと思います。1日も早い終息を願っています。

- 1・椅子に座り両腕を、曲げ指先を肩に置く。
- 2・肘で円を描くようにしながら、腕を大きく後ろに回す。(約6秒かけてゆっくり)
- 3・反対まわし(前)も同じように行う。
- 4・この交互の動きを片方5回ずつ繰り返す。



子ども・お母さんたちが借りて読んでいる本 (2019年5月～2019年7月)

2019年5月

おしりたんてい かいとうとねらわれた
はなよめ
本当にあった恐怖のお話 - かい - 怪
とけいのほん②
おしりたんてい ふめつのせつとうだん
父親が教えるツルカメ算
10歳からの相対性理論
おしりたんてい みはらしそうの かい
じけん
博士の愛した数式
世にも美しい数学入門
自然図鑑 解剖学教室へようこそ
すってはいて よいくうき
なまけてなんかない
齋藤孝のガツンと一発シリーズ第1巻
勉強なんて簡単だ
齋藤孝のゼッタイこれだけ! 名作教室
小学1年生
齋藤孝のイッキによめる名作選 小学1
年生
三陸海岸大津波
おしりたんてい かいとう VS たんてい
齋藤孝のゼッタイこれだけ! 名作教室
本当にあった恐怖のお話 - やみ - 闇
かたつむりののんちゃん
ぼんやりやまのぼんたろう
いい親よりもたいせつなこと
原爆供養塔
せつない動物図鑑

2019年6月

老いはこうしてつくられる
おしりたんてい⑧
おしりたんてい カレーなるじけん
こども君主論
かぶとむしとくわがたむし
まさかりどんがさあたいへん
いちねんせい
でんしゃほうとう
世界の歴史①メソポタミアとエジプト
本当にあった怖い話 - かい - 怪
おしりたんてい かいとうとねらわれ
たはなよめ
おしりたんてい カレーなるじけん
マンガでわかる! 言葉 1000
人工衛星のひみつ
南極のサバイバル
おしりたんてい みはらしそうの か
いじけん
本当にあった怖い話 - やみ - 闇
おしりたんてい カレーなるじけん
かいけつゾロリの恐怖のやかた
ピーターパン
きりみ
momo
自然史ミュージアムのサバイバル①
鳥のサバイバル①
せつない動物図鑑
ひなちゃんとふりかえる平成史
春色梅児誉美

中学入試慣用句 ことわざ
齋藤孝のイッキによめる名作選
齋藤孝のガツンと一発シリーズ第3巻
そんな友だちなら、いなくたっていいじ
ゃないか
おしりたんてい かいとうとねらわれた
はなよめ
ペンション UFO の怪事件
せつない動物図鑑
ざんねんないきもの事典
バイバイスクール
手塚治虫

2019年7月

洞窟のサバイバル
海のサバイバル
なぞなぞはじまるよ
なぞなぞはじまるよ②
ざんねんないきもの辞典
おしりたんてい カレーなるじけん
パパは塾長さん
ゼッタイこれだけ! 名作教室小学1年生
上
かいけつゾロリのチョコレートじょう
かいけつゾロリ①きょうふのゆうえんち
ロボット世界のサバイバル①
ウォーリーのふしぎなたび
おしりたんてい かいとう VS たんてい
ドラゴン桜公式副読本 16歳の教科書
月たった2万円のふたりごはん
本当にあった怖い話 - かい - 怪

ぶらい石川ライぶらい

ブレイディみかこ「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」新潮社 を読んだ(二人の)感想

◆ブレイディさんの子育てに対しての考え方が私と似ている部分がありました。学校の選び方から、子供の通う学校で逢うお友達への思いなど、子供の考えをととても大事に思っていること。そして、子供に自分に考えさせる環境を与えていることです。本に書かれているエピソードの中にブレイディさんご本人が受けたいじめから得たものと、息子さんのアイデンティティの部分がとても印象に残りました。私が受けてきたいじめられた内容を子供達に話しました。それを聞いていた長男は黙ったまま涙を流していました。子供達には常に「自分がやられて嫌なこと、言われて嫌なことは絶対に人にはほしくないこと」「自分がやられて嬉しいことは、それは進んで人にはやる(良いことをする)ことを伝えています。そして、嘘を着くことは決してしないこと。正直でいること、それが人のためにもなるし、自分のためにもなる」と言うことも常に伝えています。まあ、良い嘘(人のためにも)もありますけど、それは追々分かってくることだと思っています。息子さんのアイデンティティのところは私も経験してきました。日本での生活、日本人に見られているのに名前がカタカナ。病院、学校の出席をとる時など名前を呼ばれると、回りの人が見てくる。学校でも、一線をおかれているような感じでとても複雑な思いでした。日本人として溶け込めれば嫌な思いはしないのだろうか、どうして私は日本人ではないのだろうか、日本人だったら、ちがっていたのか等考えている時もありました。私の発言でいろんな人が見てくる、恥ずかしい・・・そうか、私を外国人として、みんな見ているんだ!嫌だなあ～とっていました。日本に、帰化(日本国籍)したときはその思いが取れ、とても楽な気持ちでしたが、完全に取れたわけではありませんでした。やはりどこかが引っかかっており昔の嫌な思いが時々現れ、私はどんな目で見られているんだろう、私の発言が・・・とか。病院、学校などで名前を呼ばれたときも、また見られている!とっていたが日本の名前だ!もう大丈夫～と、安心するときもありました。その頃の私はブレイディさんの息子さんとは違って、自分のアイデンティティを分かち合える人はいなかったの、とても苦しく、とても長い期間思いつづけていました。私のことを完全に理解してくれたのは主人と主人のご両親でした。私は救われました。そしてクリスチャンに改宗してからできた10年以上のお付き合いあるお友達にも、理解してもらえて私は自分のアイデンティティから抜け出すことができました。息子さんのように、私の子供達もいつかきっと自分のことで悩むときがくるでしょう。その時は寄り添い話を聞き理解してあげられる母親になりたいと思います。この本に出会えたことで子供への思い、考え方を違う観点から見ることができました。そして、自分と似た状況の人がいることを嬉しく思います。この先どんな形で新たな学びがあるか分かりませんが、その新たな出会い、学びを楽しみにしています。この本を、すすめてくれた石川先生に感謝しています。どうもありがとうございました。●ナルミさんからの VOICE■ (もう一人は次号掲載)

<<ミツキ先生の幼児教室>>

●4歳～6歳（年少～年長）**小学校入学準備**

●月曜と金曜 午後3時～5時

「～読み書き算数・思考力～」基礎から丁寧に

◆石川塾では小学校に入学したときに、教科学習にスムーズに取り組めるように「かず」「りょう」「かたち」の概念が理解できるところから「すいり」まで、**学習の基礎を丁寧に**教えていきます。また、子どものつまずきや、理解度に合わせた指導をしていきます。

<使用教材の一例>

◎清風堂 算数プリント/国語プリント

◎理英会 かたち博士ワークブック/ぼっちりくんどリル 立体図形

◎こぐま会 ひとりでとっくんシリーズ

◎幼児さんすう総合研究所 算数パズル/さんすうトランプ/ぱちぱち LaQ

◎東洋館出版社 パターンブロック

◎くもん知育教材 など様々な教材を使って“楽しく”“ねばり強く”“考える”授業を展開！



●2歳～3歳 **親子で！入園準備**

●月曜と金曜 午前10時～12時

「～絵本の読み聞かせ+読み書き算数ファーストステップ～」

◎発達に見合った絵本を選び“読み聞かせ”しています。

◎様々な知育玩具での遊びを通して、お子様の興味を広げていきます。

◎かず・かたち・りょうの基礎をくり返し、楽しく学びます

○**育児相談もお気軽にお声かけ下さい。**



●「小学校受験サポート」年少から・時間はご相談ください

(公財)日本数学検定協会認定資格「幼児さんすうインストラクター」

★講師:わたなべ みつき◎プロフィール◎

★2児の母(小学3年生…小学校受験 年長…幼稚園受験 女の子2人)

★他に看護師国家資格あり 大学病院・療養型病院に勤務経験

★石川塾に6年前から親子で通塾し、石川塾長のノウハウを教わる

★石川塾にて「ワークショップ」「Weekly・Monthly」「千の声 VOICE」を担当

★子どもに教えているうちに、教えることが楽しくなり上記資格取得のためインストラクター養成講座を受講し「幼児さんすうインストラクター」となる



生徒募集中！紹介者には謝礼あり！

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。

お問合せは…TEL042-710-5768 **読み書き算数 石川塾**

担当:ワタナベミツキ

<就学前の学習の様子>



<かたち博士>



<ひらがなのお勉強>



<けいさんのお勉強>



<立体図形>

赤ちゃんは胎児の頃からお母さんの内臓音や声や外界の音を聞きながら成長している。そして「ことば」を覚えていくときにも音をたよりに学んでいく。なにより歌が大好きだ。抱っこされながら、お母さんが歌ってくれる子守唄♪お母さんが赤ちゃんのためにかけるメロディーと口ずさむ声♪お母さんたちの記憶にも残っていませんか？いざ…親子のスキンシップと「ことば」の世界へのいりぐちへ♪

五十音 こじゅうおん	水馬赤いな あめんばあか	浮藻に小えびもおよいでる うきもこ	柿の木 栗の木 カキケケコ かき くり	啄木鳥こつこつ 枯げやき きつつき かれ	大角豆に酸をかけ サシセソ ささ豆	その魚浅瀬で刺しました うおあせ	立ちましょ 喇叭で タチツテト た らっぱ	トテトタツタと飛び立った と	なめくじのろのろ ナニヌネノ なめくじ	納戸にぬめって なにねぼる なんど	鳩ぼつぼ ほろほろ ハヒフヘホ ほと	日向のお部屋にや笛を吹く ひなた	蝸牛 螺旋巻 マミムメモ まいまい ねじ まき	梅の実落ちて見もしまい うめ	焼栗 ゆで栗 ヤイユエヨ やきくり	山田に灯のつく宵の家 やまだ	雷鳥は寒かろ ラリルレロ らいちょう	蓮花が咲いたら瑠璃の鳥 れんげ	植木屋 井戸換え お祭だ うえきや いどがえ まつり
---------------	-----------------	----------------------	------------------------	-------------------------	----------------------	---------------------	--------------------------	-------------------	------------------------	----------------------	-----------------------	---------------------	----------------------------	-------------------	----------------------	-------------------	-----------------------	--------------------	-------------------------------

北原白秋
きたはら はくしやう

◎石川塾の朗読暗唱◎

石川塾では、幼児から朗読暗唱に取り組みます。そのトップバッターは北原白秋の「五十音」。分節ごとにリズムカルに音読し、ほとんどの塾生が1週間で暗唱できます。この「五十音」は、アナウンサーや声優、俳優の活舌トレーニングによく取り入れられています。陰山メソッド『徹底反復音読プリント』の最初がこの「五十音」です。この本をベースに朗読暗唱を毎回テスト(石川塾ではチャレンジと言います)し、“ことば”の素晴らしさを身体全体、全身で味わいます。



<徹底反復音読プリント/小学館>



◆山口遥子さん(歌)と古川麦さん(ギター・歌)のデュオ Doppelzimmer(ドッペルツィマー)。二人が2016年にリリースしたアルバム「拡がる二人部屋」のなかに「五十音の唄」が収録されている。山口さんの上の子どもが2歳頃の頃のまだよくまわらない口で「アイウエオ」「カキケケコ」と言う愛らしい声が入っている。どこか懐かしくて新しい、子どもにも大人にも心地いいサウンド。

<CD /チンブンカンブンとんちんかん/拡がる二人の部屋>

◎童謡を子育てに◎

童謡は昔から歌い継がれてきたものがたくさんあり、赤ちゃんが“ことば”を覚える手助けをしてくれます。CDをかけなくても、お母さんが知っている歌を抱っこしたりおんぶしたりしているときに歌ってあげること、お子さんは歌を聞いて真似して歌い“ことば”を覚えることが出来る。子どもは本当に歌が好き！手遊びを交えてお子さんと楽しい時間を♪♪



<クラウン徳間ミュージック/赤ちゃんのためのどうよう>

<< 読み書き算数 石川塾 からの VOICE >>

- 個別指導・小学受験・中学受験・高校受験・大学受験への道を開き・良い仕事をするために選択肢を広げます
- ▲生涯にわたる学習能力・音読力・暗記力・ノート力・作文力・読解力・コミュニケーション力・生きる力をつけます
- 教室で読書タイムを毎回 15～20 分サービスしています/本好きになる!「おもしろい本」をイッキに読もう!
- ▲読書タイム専用の国語のノート(10ミリ方眼)を御用意ください▲ポイントが貯まると図書カードと交換▲

□石川塾の肝心要 ～自分で生きていくための要旨要約～

皆さん要旨要約をご存知ですか?石川塾では授業の前に要旨要約をやります。まず全体を通してどういった物語なのか20字程度で書きます。そうして具体的に、またこの物語が伝えたかったことを200字で書くというものです。石川塾では夏目漱石の夢十夜の第一夜が最初の題材です。この物語は男が死んだ女を100年待つ話とでもいいでしょうか。すごく独特なお話で初めの題材としては難しいかもしれませんが。ただ慣れてくるととても面白いものになります。まず自分では手に取らないような本を読めてそれが知識に繋がるところから大切な部分を抜き出しそれが取捨選択の上達に繋がります。また本から学ぶことは沢山あります。例えば私がすごく考えさせられた題材は”人にはどれだけの土地があるか”という物語です。自分が歩いた分だけ土地をもらえる、そのかわり夕暮れになるまでに歩き始めた場所に戻って来ることが条件というお話です。この物語では人の強欲さがわかりやすく描いてありとても読みやすく考えさせられるものになっています。沢山の本を読み自分の考え方が変わることさえあります。すごく自分にとってプラスになるもので石川塾ならではです。物語以外にも論文のようなものもあります。論文といってもそんなに堅苦しいものではなく私たちの生活をよりよくしてくれることが書いてある参考書みたいなものです。齋藤孝の本です。この本で私の考え方はガラリと変わりました。”やるべきことはやろうと思ったらすぐ行動する”私はこれを読むまでギリギリまでやらずにいた人間でした。さらにやるまでにすごく時間がかかっていました。けれどこの本にやろうと思ったらとていえず体を動かし始めるといいということが書いてあったため実践してみるとすぐやる気になりました。こんな本も要旨要約します。悪い習慣や自分の考え方が変わり要旨要約の力がつくなんて一石三鳥くらいありますね。石川塾では勉強だけでなくこういった力もつけさせてくれます ●マイ先生からの VOICE■

□語彙力・読解力・記述力をつけます □国語・算数・数学・英語・歴史

□2020年度/漢字検定/算数・数学検定/英語検定/歴史検定/ほか

□石川塾で□受検日を決める! □練習する! □合格する!

[漢字能力検定](漢検)

□2020年□6/13(土)□受付・会場□石川塾

[算数・数学検定](数検)

□2020年□6/20(土)□受付・会場□石川塾

[歴史検定](歴検)…年1回

□2020年□11月下旬(土)□受付・会場□石川塾



□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と歩む/わが子と遊ぶ/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山だれもしらない土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいつばいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「読み書き算数塾石川ゼミ」検索■

□はじまり(脱いだ五足の靴のお母さん方と)

●読み書き算数塾・石川ゼミに親子で入塾し、石川剛先生から勉強だけでなく、子育てのヒントやからだを作ることなど多岐に渡る教を頂戴しております。石川塾長を慕い集まってくくださった私を含め5名のお母さまとともに石川ゼミで出会った沢山の VOICE を発信したいと思いつち上がりました。この千の声を手に取ってくださった方のお役に立てていただければ幸いです ■編集長・渡邊光樹からの VOICE■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄にミツキ先生の「weekly・monthly」を掲載していますので御覧ください

●編集兼発行人・石川剛からの VOICE ●針生氏の“赤ちゃんはことばをどう学ぶのか”は一歳の子供とドイツ語を学ぶ父親の面白いエピソードから始まります/一歳を過ぎると子どもの話すことばの数が急に「爆発的な勢い」で増えますが/一歳まで子どもは何を学んでいたのでしょうか…/ヘレン・ケラーとサリバン先生の話も出てきます ■絵:kumi■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2020年春号「千の声 VOICE」第8号>令和2年3月25日発行 ■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く ■☎042-710-5768